

ブラックスタート機能公募(2025年度向け)の
意見募集でいただいたご意見に対する回答一覧

関西電力送配電株式会社

意見募集でいただいたご意見に対する回答

No.	種類	頁	該当項目	意見	回答
1	要綱	15	9章 主な契約条件 (2) 料金	<p>容量市場からの対価相当金額の計算に関して、揚水発電所においては後述の理由により「期待容量＞応札容量」となる(期待容量は容量市場の期待容量算定様式にてその算定方法が定められている)。</p> <p>そのため、応札容量の算定方法に問題がないと認められるものについては、応札容量を用いて対価相当金額を計算することとしていただきたい。</p> <p>※「期待容量＞応札容量」となる理由 揚水発電所の期待容量および応札容量は、“出力”×“運転継続時間によって定められる調整係数”によって計算される。</p> <p>期待容量算定上、出力は送電端定格で固定、運転継続時間は池容量を超過しない範囲で設定することとされており、実際には水位低下により出力が低下することから、実現できない組み合わせとなる。</p> <p>応札容量は池容量の範囲内で実際に出力できる組み合わせの中から算定を行うため、その結果、応札容量は期待容量よりも減少する。</p>	<p>昨年も以下の通り同様のご意見を頂いておりますが、改めて電力・ガス取引監視等委員会に確認しましたが、2025年度向けブラックスタート機能公募においても考え方※に変更はないため、応札容量ではなく期待容量で算定するとの回答であった。このため、基本料金は「期待容量」を用いて算出させていただくことから、計算式の送電端出力は期待容量を算出する出力となります。</p> <p>※第42回制度設計専門会合資料6P10で整理された「2024年度向けブラックスタート機能公募の支払額の考え方について」</p>

【参考:ブラックスタート機能(2024年度向け)公募募集要綱(案)等への意見に対する回答】

-	要綱 契約書	14 5	・9.主な契約条件 (2)料金 ・第12条 基本料金および月間料金	<p>【問い合わせ内容】 計算式にある「送電端出力」とは、具体的に何を指すのか確認したい。(送電端定格出力を指すのか、容量市場応札上の管理容量を指すのか)</p> <p>【理由・補足】 2018/10/18第42回制度設計専門会合資料には、期待容量(設備容量に調整係数を乗じたもの)と記載されている。一方、期待容量は一般送配電事業者と発電事業者の間で決定することとされており、実質は管理容量を指していると理解している。</p> <p>容量市場での応札容量(管理容量×調整係数)を算出する際の管理容量は、設備容量より小さくなるため、仮に「送電端出力=設備容量」との解釈になると、容量市場からの収入よりも本計算式によって算出される控除額の方が大きくなり、固定費の全額回収が困難になるため。</p>	<p>第42回制度設計専門会合資料6P10の「期待容量は一般送配電事業者と発電事業者の間で決定する」の解釈について、電力・ガス取引監視等委員会にも再確認しましたが、容量市場に入札しない場合も考慮して記載されているものであり「期待容量」は「容量市場に応札できる最大容量」※となります。</p> <p>なお、「容量市場の応札容量」については、応札事業者(発電事業者)側でリスク等を考慮して判断いただくものであり、一般送配電事業者との間で決定するものではありません。</p> <p>このため、基本料金は「期待容量」を用いて算出させていただくことから、計算式の送電端出力は期待容量を算出する送電端出力となります。</p> <p>※容量市場メインオークション募集要綱(案)(対象需給年度2024年度)様式2期待容量等算出諸元一覧https://www.occto.or.jp/iken/2019/files/191120_youryou_main_bosyuyoukou.pdf</p>
---	-----------	---------	--------------------------------------	--	--